

● Ruby JIS 化の経緯

- 2008年11月 : IPA に Ruby 標準化検討ワーキンググループ設置。
中田育男（筑波大学名誉教授）を委員長とし、Ruby 処理系の開発者、Ruby の利用者、標準化の専門家等からなるワーキンググループを IPA に設置し、仕様書の作成を開始。
Ruby の言語仕様の整理等を行い、英文にて仕様書案を作成。
- 2009年12月
～2010年1月 : Ruby 英文仕様書案について、Ruby コミュニティから意見募集。
- 2010年4月 : Ruby 仕様書説明会及び再度のコメント募集。
国際標準化の関係者、Ruby コミュニティの人々に対して、Ruby 仕様書の説明会をニューヨークで開催。再度コメントを収集、仕様書に反映し英文仕様書案を完成。
- 2010年4月 : 英文仕様書を日本化し、JIS 原案の草稿を作成。
- 2010年5月
～10月 : 日本規格協会でのレビューを経て、JIS 原案文書を作成。
- 2010年10月 : 経済産業大臣に対して、JIS 化を申し出。
- 2010年11月
～2011年2月 : 日本工業標準調査会による審議と意見受付公告。
- 2011年3月22日 : JIS X 3017（プログラム言語 Ruby）制定。官報公示。
同日、国際標準化のためのファーストトラック⁽¹⁾提案依頼を日本工業標準調査会に申し出。

⁽¹⁾ 国際標準の策定には、ISO/IEC JTC 1 にて、新規作業項目の提案から始め、何度かに渡る各国代表による投票を経て国際標準となる、一般的な策定手順と、既にある国の国内標準となっている規定を、そのまま国際標準として認めるファーストトラックによる策定手順がある。ファーストトラックの方が国際標準となるまでの期間が短い。